羅針盤　vol.108

校長　白岩博明

「〇〇の秋」の本格的な到来です。さしずめ、本校では「学びの秋」が相応しいでしょうか。高校2年生、中学3年生は「研修旅行」へ出かけ、高校1年生、中学1年生は「ミュージック・アウトリーチ」に参加しました。

高校2年生は、10月13日（火）～17日（土）の4泊5日、東北・北海道コース、沖縄コース、カンボジアコースの3コース（選択）に分かれて行ってきました。中学3年生は、20日（火）～23日（金）、台湾へ行ってきました。そして、高校1年生と中学1年生は、本校第1体育館で行われた「ミュージック・アウトリーチ」に参加しました。20日（火）は高校1年生の6クラスと中学1年生、21日（火）には高校1年生の7クラスによって行われ、それぞれ「学びの秋」を過ごしました。

（右は、沖縄コース、「平和の礎」における平和学習の様子）



「一歩、前に踏み出す」

私も同行した沖縄コースでの生徒の様子、今回で6回目となる「HEART GLOBAL ミュージック・アウトリーチ」での生徒の様子について記します。

初日、那覇空港に降り立った後、糸満市にある平和記念公園に向かいました。約1時間のバスでの移動中、バスガイドさんが我々に沖縄のことについて説明してくださいました。”めんそーれ”（いらっしゃい）に対して男性は”はいさい”（こんにちは）と答え、女性は”はいたい”（こんにちは）と答えること。81年前、唯一の地上戦となった沖縄のこと。沖縄では「ゆいまーる」（助け合うこと）を大事にしていること。そして、戦争を経て「ヌチドゥ宝」（命どぅ宝　命こそ宝である）を沖縄の人は大切にしていること。などを教えてくださいました。沖縄での平和学習、最初の学びでした。

到着後、2グループに分かれ、「平和記念資料館」の見学、韓国人慰霊塔の見学、そして、ピースパークツアーと行いました。中でもピースパークツアーは、公園内を見学しながらガイドさんから沖縄戦の歴史や平和の尊さについて深く知ることができました。特に、沖縄戦で亡くなった24万2千名の名前が刻まれている「平和の礎」には、国籍や軍人・民間人の区別なく刻まれています。

ガイドさんが、とある名前が刻まれているところに案内してくれました。その名前は、「牛島満（うしじまみつる）」でした。「この人は誰なのか、わかる人はいますか？」というガイドさんの質問に、ある生徒が「陸軍の人の名前ですか？」と答えると、「そうです。沖縄戦におけるに日本軍（陸軍第32軍）の司令官だった牛島中将です。民間人と軍人が共に刻まれています。立場の違いを超えて、尊い命を平等に追悼し、戦争の悲惨さを未来に伝えるという『平和の礎』の意味がここにあるのです」と教えてくれました。生徒がその話に真剣に聞き入っていたのが印象的でした。平和の意味を掴み、生徒たちは、一歩、平和への歩みを進められたのかもしれません。

20日（火）と21日（水）の2日間、「HEART GLOBAL ミュージック・アウトリーチ」が行われました。このプログラムは、世界12か国から日本に来ている約30名のキャストたちによって、生徒たちと一緒に歌やダンスのショーを作り上げるものです。2019年から実施していますが（途中、コロナ禍で2年間中止）、今年で6回目となりました。

本校では 1 Day プログラムを実施し、4 時間という短い時間の中で、30分のミニショーを完成させるべく、ワークショップに臨みました。最初は歌ったり踊ったりすることに若干の恥ずかしさや抵抗を感じていた生徒たちでしたが、徐々に気持ちが打ち解け、笑顔があふれるようになりました。学級担任の先生方などもワークショップに参加し、大いに盛り上がりました。生徒たちは、プログラム終盤には自信をもってショーを演じ切ることができました。

毎回のミュージック・アウトリーチで見る光景は、初めは戸惑い、恥ずかしさを見せていた生徒たちが歌と踊りを通じてキャストたちの巧みなリードによって導かれ、感じたことを感じたままに表現し、これまで見たことがない、見せたことがない自分に出会っていくことです。未体験のことにチャレンジし、やり遂げた達成感から自信を獲得していく生徒たちの姿を確かめることができるのです。

このプログラムに出会ってよかった、導入してよかったとつくづく思っています。何よりも、生徒たちが一歩前に踏みだせた、という手応えを覚えたことが収穫なのです。この感覚を今後の生活の中で生かして欲しいと願っています。